

# 平成30年度美術刀剣製作技術保存研修会 作刀技術実地研修会 実施される

去る平成30年9月26日から29日までの4日間にわたって、島根県仁多郡奥出雲町大字大呂にある本協会の施設である「日刀保日本刀鍛錬道場」において、標記研修会が実施されました。

この研修会は、若手刀匠を中心とした作刀技術の向上を図ることを目的として、昭和58年より開設され、今年で36回目となります。本研修会は、1年目を「鍛錬」、2年目を「素延・火造」

そして最後の3年目に「焼入れ」を行い、3カ年をもって修了とするカリキュラムを組み、この三工程を全ておえると、研修修了となります。本年の研修は、第13期の3年目にあ

たり、「焼入れ」をテーマとしました。またそれと同時に、近年のサブテーマである「各種玉鋼の効果的使用法」の研修も行いました。本年度の講師及び研修生は次の通りです。講師以外は五十音順、氏名の括弧内は刀匠名。

講師 松葉一路(國正)  
久保善博(善博)

特別研修生 静岡 内田善基(義基)  
研修生 東京 宮城朋幸(朋幸)



開講式 奥原副町長の挨拶



たたら炭製造の解説



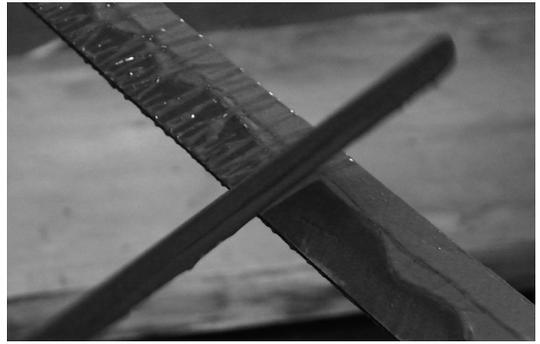
炭切り実習



久保講師による土置きの指導



土置き



土置きの様子



焼入れの実習



玉鋼選別の実習



閉講式 松葉講師による講評

聴講生  
 神奈川 栗谷文治  
 東京 辻村 圭  
 宮崎 富岡慶一郎  
 岡山 箱田瑛子  
 奈良 藤村恵當(寿恵)  
 島根 古山直樹(直樹)  
 島根 堀尾 薫(薫)  
 (以上七名)

を務められ、本年急逝された吉原義一  
 元講師へ全員で黙禱を捧げました。  
 また、来年のたたら操業準備たけな  
 わでもあることから、炭焼きの苦労や  
 その手順等の解説を受ける時間を設け  
 ました。解説は三浦上級養成員にお願  
 いしました。  
 本研修会も四十周年が視野に入って  
 参りました。その間、多くの方々がこ  
 こで学ばれ、技倆を向上させ、刀工と  
 して名をなされています。特にここ数  
 年の傾向として、少数精鋭で研修会を  
 行っています。少ない人数で多くの成  
 果を上げるため、講師も研修生も限ら

れた時間を有効に使い、真摯な姿勢で  
 研修を進めており、今後はさらなる多  
 くの成果が期待できることでしょう。  
 最終日には、閉講式に先立ち、恒例  
 となった玉鋼を選別する実習も行われ  
 ました。受講生はモノづくりの現場に  
 住まう人間として、その責任を実感す  
 る場となったようです。  
 閉講式では、木原明氏の挨拶と松葉  
 講師の講評をいただき、そして受講生  
 全員に、久保講師から修了証書が手交  
 されました。  
 来年の再会と今後の発展を期して金  
 屋子神に拝礼し、解散となりました。